

証券コード 7483

2018年6月12日

株 主 各 位

大阪府中央区東心斎橋1丁目5番5号

**株式会社ドウシシャ**

代表取締役社長 野村正幸

## 第42回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第42回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使できますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討の上、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2018年6月27日（水曜日）営業時間終了の時（午後5時30分）までに到着するようご送付いただきたくお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2018年6月28日（木曜日）午前10時
  2. 場 所 大阪府中央区東心斎橋1丁目5番5号  
株式会社ドウシシャ大阪本社ビル11階  
（末尾の会場ご案内図をご参照ください。）
  3. 目的事項  
報告事項
    1. 第42期（2017年4月1日から2018年3月31日まで）  
事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会  
の連結計算書類監査結果報告の件
    2. 第42期（2017年4月1日から2018年3月31日まで）  
計算書類報告の件
- 決議事項
- |       |           |
|-------|-----------|
| 第1号議案 | 剰余金処分の件   |
| 第2号議案 | 取締役8名選任の件 |

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

なお、株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス<http://www.doshisha.co.jp/>）に掲載させていただきます。

(添付書類)

## 事業報告

(2017年4月1日から  
2018年3月31日まで)

### 1. 企業集団の現況

#### (1) 当連結会計年度の事業の状況

##### ① 事業の経過及び成果

当連結会計年度における我が国経済は、企業収益や雇用環境に改善が見られ、緩やかな景気回復基調にあるものの、賃金の伸び悩みや社会保障制度の変更による負担増などにより、国内個人消費の回復については限定的であり、生活関連商品における節約志向や選別消費が続いております。

当社グループが身を置く流通業界におきましても、差別化を求めて業種業態を越えた販売競争が激化しており、厳しい状態が続いております。

このような状況下、「生活者視点でドウシシャを浸透させよう！」を2018年3月期の経営方針として、当社グループでは、更なる企業価値の向上を目指し、「販促プロモーション、Eコマースと海外販売の強化」、「新たな事業の創出」、「ロジスティクス戦略の推進」に取り組み、2017年11月より、千葉県木更津市に、東日本で初の自社物流拠点となる関東物流センターを稼働するなど、各事業における競争優位性の確保と継続的成長の実現を図り、「ビジネスモデルの強化」と「事業基盤の強化による収益力の向上」の取り組みを行ってまいりました。

その結果、当連結会計年度における当社グループの業績は、売上高103,589百万円（前期比96.8%）、売上総利益27,281百万円（前期比104.0%）、営業利益7,769百万円（前期比109.7%）、経常利益8,001百万円（前期比112.3%）、親会社株主に帰属する当期純利益5,490百万円（前期比115.1%）の減収増益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

「開発型ビジネスモデル」

シューズ関連では、当社ライセンスブランド「K a e p a（ケイパ）」を中心に、衣料専門店やGMSでの販売が伸長したほか、ディスカウントストアやホームセンターといった多種多様な業種に対しても、販売が伸長しました。また、アパレル関連でも、「K a e p a（ケイパ）」を中心に

販売が伸長したほか、著名ライセンスを使用したウェアの展開により、カジュアル衣料専門店への販売が好調に推移しました。収納関連では、ネット通販を中心にインテリア雑貨や収納関連用品の販売が好調に推移しました。また、ホームセンターへの販売においても、売れ筋商品を中心に販売が好調に推移しました。

均一雑貨関連では、デザイン性が高く低価格なインテリア雑貨を中心に、商品の拡充を図り、販売が大きく伸長しました。夏物商品としての氷かき器、扇風機といったカテゴリーにおいても、好調に推移しました。テレビ関連では、激しい価格競争の影響により、売上高は前年を下回りましたが、下半期から取引生産メーカーを見直し、社名でもある「DOSHISHA（ドウシシャ）ブランド」の商品を立ち上げました。この結果、セグメント利益は、前年同期を上回り、業績改善の兆しが見えてまいりました。

その一方で、LED照明関連などのカテゴリーでは、引き続き、激しい価格競争の影響により、前年同期の販売を下回り、低調に推移しました。

その結果、当セグメントの売上高は49,958百万円（前期比101.7%）、セグメント利益は3,839百万円（前期比129.6%）となりました。

#### 「卸売型ビジネスモデル」

有名ブランド関連では、高額時計の販売は、前年同期を下回りましたが、中価格帯モデルを中心とした当社ライセンスブランドやタイアップブランドの時計やブランドバッグについては好調に推移し、セグメント利益では前年同期を上回る結果となりました。

ギフト関連では、食品ギフトを中心に、売上高は前年同期を下回る結果となりましたが、処分費の抑制など経費削減効果により、セグメント利益では前年同期を上回る結果となりました。

そのほか、スポット販売を中心とした日用品雑貨関連や玩具類の販売は、好調に推移しました。また、当社ライセンスキャラクター「ごろねこサミット」シリーズのクッションなどの販売も好調に推移しました。

その結果、当セグメントの売上高は50,606百万円（前期比93.0%）、セグメント利益は3,989百万円（前期比113.1%）となりました。

## ② 設備投資の状況

当連結会計年度中において実施いたしました設備投資等の主なものは、次のとおりであります。

### イ. 当連結会計年度中に完成又は取得した主要設備

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設について、当連結会計年度中に完了したものは次のとおりであります。

| 事業所名<br>(所在地)         | セグメントの<br>名称 | 設備の<br>内容    | 投資総額<br>(百万円) | 資金調達方法                  | 完了年月     |
|-----------------------|--------------|--------------|---------------|-------------------------|----------|
| 関東物流センター<br>(千葉県木更津市) | 全社共通         | 倉庫業を<br>営む倉庫 | 5,791         | 自己資金及<br>び金融機関<br>からの借入 | 2017年11月 |

(注) 金額には消費税等を含めておりません。

### ロ. 当連結会計年度において継続中の主要設備の新設、拡充

該当事項はありません。

### ハ. 当連結会計年度中に実施した重要な固定資産の売却、撤去、滅失

該当事項はありません。

## ③ 資金調達の状況

該当事項はありません。

## ④ 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

該当事項はありません。

## ⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況

該当事項はありません。

## ⑥ 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はありません。

## ⑦ 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況

該当事項はありません。

## (2) 財産及び損益の状況

### ① 企業集団の財産及び損益の状況

| 区 分                   | 2015年3月期       | 2016年3月期       | 2017年3月期       | 2018年3月期<br>(当連結会計年度) |
|-----------------------|----------------|----------------|----------------|-----------------------|
| 売 上 高                 | 百万円<br>103,647 | 百万円<br>110,843 | 百万円<br>107,015 | 百万円<br>103,589        |
| 経 常 利 益               | 7,114          | 8,921          | 7,122          | 8,001                 |
| 親会社株主に帰属<br>する当期純利益   | 4,477          | 5,754          | 4,770          | 5,490                 |
| 1株当たり<br>当期純利益        | 120円07銭        | 156円27銭        | 132円39銭        | 151円97銭               |
| 潜在株式調整後<br>1株当たり当期純利益 | —              | 155円28銭        | 131円79銭        | 151円14銭               |
| 総 資 産                 | 百万円<br>68,280  | 百万円<br>76,806  | 百万円<br>78,659  | 百万円<br>86,987         |
| 純 資 産                 | 58,161         | 58,163         | 60,255         | 66,594                |
| 1株当たり純資産額             | 1,533円42銭      | 1,557円17銭      | 1,657円39銭      | 1,778円84銭             |

(注) 1株当たり当期純利益は、自己株式を控除した期中平均発行済株式総数により、1株当たり純資産額は、自己株式を控除した期末発行済株式総数により算出しております。

### ② 当社の財産及び損益の状況

| 区 分                   | 第39期<br>(2015年3月期) | 第40期<br>(2016年3月期) | 第41期<br>(2017年3月期) | 第42期<br>(当事業年度)<br>(2018年3月期) |
|-----------------------|--------------------|--------------------|--------------------|-------------------------------|
| 売 上 高                 | 百万円<br>96,061      | 百万円<br>103,621     | 百万円<br>99,860      | 百万円<br>96,181                 |
| 経 常 利 益               | 6,963              | 8,196              | 6,542              | 7,405                         |
| 当 期 純 利 益             | 4,725              | 5,459              | 4,593              | 5,200                         |
| 1株当たり<br>当期純利益        | 126円72銭            | 148円26銭            | 127円47銭            | 143円95銭                       |
| 潜在株式調整後<br>1株当たり当期純利益 | —                  | 147円32銭            | 126円90銭            | 143円16銭                       |
| 総 資 産                 | 百万円<br>64,166      | 百万円<br>72,758      | 百万円<br>74,448      | 百万円<br>82,442                 |
| 純 資 産                 | 55,355             | 55,378             | 57,190             | 63,366                        |
| 1株当たり純資産額             | 1,479円76銭          | 1,505円49銭          | 1,597円26銭          | 1,713円45銭                     |

(注) 1株当たり当期純利益は、自己株式を控除した期中平均発行済株式総数により、1株当たり純資産額は、自己株式を控除した期末発行済株式総数により算出しております。

### (3) 重要な親会社及び子会社の状況

#### ① 親会社の状況

該当事項はありません。

#### ② 重要な子会社の状況

| 会社名             | 資本金          | 当社の議決権比率  | 主要な事業内容     |
|-----------------|--------------|-----------|-------------|
| 株式会社ドウシヤロジスティクス | 50 百万円       | 100 %     | その他（物流事業）   |
| 株式会社カリンピア       | 145 百万円      | 100 %     | 開発型ビジネスモデル  |
| ライフネット株式会社      | 50 百万円       | 96 %      | その他（介護福祉事業） |
| 麗港控股有限公司        | 84,410 千HK\$ | 50 %      | その他（貿易業）    |
| 仁弘倉庫シンセン有限公司    | 1,652 千人民元   | 50 (50) % | その他（物流事業）   |
| 連雲港花茂日用品有限公司    | 33,032 千人民元  | 50 (50) % | その他（製造業）    |

(注) 議決権の所有割合の ( ) 内は、間接所有割合で内数であります。

### (4) 対処すべき課題

今後も世界情勢の動向が国内にもたらす影響等により、個人消費については依然として先行きの不透明な状態が続くことが予想されるほか、運送費など物流関連費用の高騰も想定されます。このような状況下、当社グループといたしましては、2019年3月期の経営方針として、『強みをいかして収益力を高めよう！ ～世界に2つとない会社になる為に～』と掲げ、現場主権・変化対応型経営・横串強化といった諸施策で、グループシナジー効果を活かして取り組み、さらなる企業価値の向上を目指してまいります。

#### 2019年3月期事業戦略

『強みの強化&進化』をテーマに、開発型ビジネスモデルと卸売型ビジネスモデルにおける事業の拡大を図ってまいります。また、継続課題として引き続き、「Eコマースと海外販売の強化」、「新たな事業の創出」、「ロジスティクス戦略の強化」にも取り組んでまいります。それにより、各事業における競争優位性の確保と継続的成長の実現を図り、「ビジネスモデルの強化」と「事業基盤の強化による収益力の向上」に取り組んでまいります。

## (5) 主要な事業内容 (2018年3月31日現在)

| セグメントの名称   | 事業内容                                  |
|------------|---------------------------------------|
| 開発型ビジネスモデル | A&V関連、家電・家庭用品、収納関連、衣料、食品・酒類等、均一商品の販売  |
| 卸売型ビジネスモデル | 時計や鞆関連及びアソートギフト等の販売                   |
| その他        | 不動産業、ライセンス業、物流業、貿易業、介護福祉用具・機器の販売及び貸与等 |

## (6) 主要な営業所 (2018年3月31日現在)

### ① 当社の主要な事業所

| 名称       | 所在地     |
|----------|---------|
| 大阪本社     | 大阪府中央区  |
| 東京本社     | 東京都港区   |
| 東京本社第1ビル | 東京都品川区  |
| 泉南物流センター | 大阪府泉南市  |
| 関東物流センター | 千葉県木更津市 |

### ② 子会社

| 会社名              | 所在地    |
|------------------|--------|
| 株式会社ドウシシャロジスティクス | 大阪府中央区 |
| 株式会社カリンピア        | 大阪府中央区 |
| ライフネット株式会社       | 東京都台東区 |
| 麗港控股有限公司         | 中国香港   |
| 仁弘倉庫シンセン有限公司     | 中国深圳市  |
| 連雲港花茂日用品有限公司     | 中国江蘇省  |

## (7) 使用人の状況 (2018年3月31日現在)

### ① 企業集団の使用人の状況

| 使用人数          | 前連結会計年度末比増減 |
|---------------|-------------|
| 1,634名 (396名) | 18名減 (36名増) |

| セグメントの名称   | 使用人数 (名)    |
|------------|-------------|
| 開発型ビジネスモデル | 350 (41)    |
| 卸売型ビジネスモデル | 240 (12)    |
| その他        | 774 (243)   |
| 全社 (共通)    | 270 (100)   |
| 合計         | 1,634 (396) |

(注) 1. 使用人数は就業員数 (当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者及び嘱託社員を含んでおります。) であり、臨時雇用者数 (パートタイマー、人材会社からの派遣社員、アルバイトであります。) は ( ) の内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2. 全社 (共通) として記載されている使用人数は、管理部門等に所属しているものであります。

### ② 当社の使用人の状況

| 使用人数        | 前事業年度末比増減   | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|-------------|-------------|-------|--------|
| 814名 (147名) | 18名増 (16名増) | 39.0歳 | 11.0年  |

| セグメントの名称   | 使用人数 (名)  |
|------------|-----------|
| 開発型ビジネスモデル | 304 (35)  |
| 卸売型ビジネスモデル | 240 (12)  |
| 全社 (共通)    | 270 (100) |
| 合計         | 814 (147) |

(注) 1. 使用人数は就業員数 (当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者及び嘱託社員を含んでおります。) であり、臨時雇用者数 (パートタイマー、人材会社からの派遣社員、アルバイトであります。) は ( ) の内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2. 全社 (共通) として記載されている使用人数は、管理部門等に所属しているものであります。



(8) 主要な借入先の状況 (2018年3月31日現在)

| 借入先          | 借入額      |
|--------------|----------|
| 株式会社三井住友銀行   | 6,000百万円 |
| 株式会社みずほ銀行    | 1,000百万円 |
| 三井住友信託銀行株式会社 | 1,000百万円 |

(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

(子会社の設立)

当社は、2018年3月7日開催の取締役会において、当社連結子会社である麗港控股有限公司の子会社(孫会社)を生産設備の増強及び生産の効率化のため設立することを決議し、2018年4月23日付で設立いたしました。

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 名 称    | 連雲港花茂実業有限公司                      |
| 所在地    | 中国 連雲港市                          |
| 代表者    | 董事長 顧 頌杰                         |
| 主な事業内容 | 製造業                              |
| 資本金    | 1百万米ドル<br>(約106百万円 1米ドル=106.25円) |
| 設立年月日  | 2018年4月23日                       |
| 決算期    | 12月期                             |
| 出資比率   | 麗港控股有限公司 100%<br>(当社間接50%)       |

(子会社の増資)

当社は、2018年5月7日開催の取締役会において、連雲港花茂実業有限公司の設備投資を目的とした出資のため、当社連結子会社である麗港控股有限公司への増資を行うことを決議いたしました。

|      |                                                            |
|------|------------------------------------------------------------|
| 増資額  | 4百万米ドル<br>(約425百万円 1米ドル=106.25円)                           |
| 払込日  | 2018年5月16日                                                 |
| 資本金  | 増資前 84,410千HK \$<br>増資後 115,806千HK \$<br>(1米ドル=7.849HK \$) |
| 出資比率 | 当社50% 顧 頌杰氏50%                                             |

## 2. 会社の現況

### (1) 株式の状況 (2018年3月31日現在)

- ① 発行可能株式総数 78,600,000株
- ② 発行済株式の総数 36,926,828株 (自己株式448,808株を除く)
- ③ 株主数 6,159名 (前期末比85名減)
- ④ 大株主 (上位10名)

| 株 主 名                                                                    | 持 株 数        | 持 株 比 率 |
|--------------------------------------------------------------------------|--------------|---------|
| エムエス商事株式会社                                                               | 12,710,900 株 | 34.42 % |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社<br>(信 託 口)                                          | 4,674,200    | 12.66   |
| STATE STREET BANK AND<br>TRUST COMPANY<br>(常任代理人 香港上海銀行東京支店<br>カストディ業務部) | 1,651,944    | 4.47    |
| GOLDMAN, SACHS & CO. REG<br>(常任代理人 ゴールドマン・<br>サックス証券株式会社)                | 1,319,600    | 3.57    |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社<br>(信 託 口)                                            | 1,200,600    | 3.25    |
| 野 村 正 治                                                                  | 1,073,383    | 2.91    |
| G O V E R N M E N T O F N O R W A Y<br>(常任代理人 シティバンク、<br>エヌ・エイ東京支店)      | 1,000,000    | 2.71    |
| 株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行                                                      | 900,000      | 2.44    |
| 三 井 住 友 信 託 銀 行 株 式 会 社                                                  | 840,000      | 2.27    |
| THE BANK OF NEW YORK-JASDECTREATY ACCOUNT<br>(常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)      | 687,300      | 1.86    |

- (注) 1. 持株比率は、自己株式(448,808株)を控除して計算しております。
2. 前事業年度末において大株主であった有限会社野村興産は、2018年3月23日付をもってエムエス商事株式会社に吸収合併されたため、当事業年度末では大株主ではなくなりました。

## (2) 新株予約権等の状況

当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況  
(2018年3月31日現在)

|                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                   |
|-----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 発行決議日                                   | 2014年6月27日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                   |
| 新株予約権の数                                 | 2,260個                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                   |
| 新株予約権の目的となる株式の種類と数                      | 普通株式 226,000株 (新株予約権1個につき100株)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                   |
| 新株予約権の払込金額                              | 新株予約権と引き換えに払い込みは要しない。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                   |
| 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額                  | 新株予約権1個当たり190,900円 (1株当たり1,909円)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                   |
| 権利行使期間                                  | 2016年7月17日から2018年7月16日まで                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                   |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 (円) | 発行価格 1,909円<br>資本組入額 955円                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                   |
| 行使の条件                                   | <p>① 新株予約権者は、新株予約権の行使時において、当社の取締役、監査役、従業員もしくは顧問または当社の子会社の取締役の地位にあることを要する。ただし、取締役、監査役が任期満了により退任した場合、従業員が定年により退職した場合、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定める一定の要件を充たした場合、または当社取締役会が正当な理由があると認めた場合は、当社の取締役、監査役、従業員もしくは顧問または当社の子会社の取締役の地位を失った後も引き続き、その権利を行使することができる。</p> <p>② 新株予約権者が死亡した場合、新株予約権者の相続人は、当該新株予約権を行使することができない。</p> <p>③ 行使期間の最終日 (行使期間の最終日が会社の休日にあたるときは、その前営業日を最終日とする。) の前営業日までに、株式会社東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値が一度でも行使価額の120%以上となった場合、当該日の翌日以降、新株予約権者は当該新株予約権を行使することができる。</p> <p>④ その他権利行使の条件は、2014年6月27日開催の当社定時株主総会決議及び同日開催の当社取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。</p> |                                                                                                                   |
| 役員<br>の<br>保有<br>状況                     | 取締役<br>(社外取締役を除く)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新株予約権の数： 1,670個</li> <li>・目的となる株式数： 167,000株</li> <li>・保有者： 5名</li> </ul> |
|                                         | 社外取締役                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新株予約権の数： 70個</li> <li>・目的となる株式数： 7,000株</li> <li>・保有者： 1名</li> </ul>      |
|                                         | 監査役<br>(社外監査役を除く)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新株予約権の数： 470個</li> <li>・目的となる株式数： 47,000株</li> <li>・保有者： 2名</li> </ul>    |
|                                         | 社外監査役                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新株予約権の数： 50個</li> <li>・目的となる株式数： 5,000株</li> <li>・保有者： 1名</li> </ul>      |

### (3) 会社役員 の 状況

#### ① 取締役及び監査役の状況（2018年3月31日現在）

| 会社における地位                 | 氏 名       | 担当及び重要な兼職の状況                     |
|--------------------------|-----------|----------------------------------|
| 代表取締役会長<br>兼最高経営責任者      | 野 村 正 治   |                                  |
| 代表取締役社長<br>兼最高執行責任者      | 野 村 正 幸   |                                  |
| 代 表 取 締 役 長<br>代 副 取 締 役 | 金 原 利 根 里 | 会長補佐、麗港控股有限公司董事長、一志商貿（上海）有限公司董事長 |
| 取 締 役 兼<br>取 専 務 執 行 役 員 | 二 木 和 宏   | 第1事業本部長 兼 イタリア事務所<br>担当役員        |
| 取 締 役 兼<br>取 執 行 役 員     | 松 本 崇 裕   | 財務経理、貿易業務、業務管理担当役員               |
| 取 締 役                    | 後 藤 長 八   |                                  |
| 取 締 役                    | 熊 本 倫 章   |                                  |
| 常 勤 監 査 役                | 藤 本 利 博   |                                  |
| 常 勤 監 査 役                | 坂 本 明     |                                  |
| 監 査 役                    | 小 山 史 郎   | 税理士<br>(小山史郎税理士事務所所長)            |
| 監 査 役                    | 江 戸 忠     | 税理士<br>(江戸忠税理士事務所所長)             |

- (注) 1. 取締役後藤 長八氏及び取締役熊本 倫章氏は、社外取締役であります。
2. 監査役小山 史郎氏及び監査役江戸 忠氏は、社外監査役であります。
3. 当事業年度に係る役員 の 重要な兼職の状況は、以下のとおりであります。
- ・取締役野村 正幸氏は、エムエス商事株式会社の取締役を兼務しております。
  - ・取締役金原 利根里氏は、株式会社カリンピア、ライフネット株式会社の取締役及び仁弘倉庫シンセン有限公司、連雲港花茂日用品有限公司等の董事をそれぞれ兼務しております。
  - ・監査役藤本 利博氏は、株式会社ドゥイング、株式会社カリンピアの監査役及び仁弘倉庫シンセン有限公司、一志商貿（上海）有限公司、連雲港花茂日用品有限公司等の監事を兼務しております。
  - ・監査役坂本 明氏は、ライフネット株式会社等の監査役を兼務しております。
4. 監査役小山 史郎氏及び監査役江戸 忠氏は、以下のとおり財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
- ・監査役小山 史郎氏及び監査役江戸 忠氏は、税理士の資格を有しております。
5. 当社は、社外取締役及び社外監査役の全員を株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

## ② 取締役及び監査役の報酬等

### イ. 当事業年度に係る報酬等の総額

| 区 分                | 員 数        | 報 酬 等 の 額       |
|--------------------|------------|-----------------|
| 取 締 役<br>(うち社外取締役) | 7 名<br>(2) | 158<br>(13) 百万円 |
| 監 査 役<br>(うち社外監査役) | 4<br>(2)   | 33<br>(7)       |
| 合 計<br>(うち社外役員)    | 11<br>(4)  | 191<br>(21)     |

- (注) 1. 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
2. 取締役の報酬限度額は、1994年6月29日開催の第18回定時株主総会において年額960百万円以内、監査役の報酬限度額については年額120百万円以内と決議いただいております。
3. 報酬等の額には、役員賞与（取締役24百万円（うち社外取締役1百万円）、監査役1百万円）が含まれております。

ロ. 社外役員が子会社から受けた役員報酬等の総額  
該当事項はありません。

## ③ 社外役員に関する事項

- イ. 他の法人等の業務執行者としての重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係  
該当事項はありません。
- ロ. 他の法人等の社外役員としての重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係  
該当事項はありません。

## ハ. 当事業年度における主な活動状況

|           | 出席状況及び発言状況                                                                                                                                    |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取締役 後藤 長八 | 当事業年度に開催された取締役会17回すべてに出席し、長年にわたる企業経営者としての豊富な経験と実績を生かし、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。                                                    |
| 取締役 熊本 倫章 | 当事業年度に開催された取締役会17回すべてに出席し、長年にわたる警察組織での幅広い経験に基づき、経営から独立した客観的・中立的な立場から、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。                                     |
| 監査役 小山 史郎 | 当事業年度に開催された取締役会17回、監査役会8回すべてに出席し、税理士としての専門的見地から、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っており、また、監査役会においては、監査結果についての意見交換、監査に関する重要事項の協議等を行っております。 |
| 監査役 江戸 忠  | 当事業年度に開催された取締役会17回、監査役会8回すべてに出席し、税理士としての専門的見地から、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っており、また、監査役会においては、監査結果についての意見交換、監査に関する重要事項の協議等を行っております。 |

## ニ. 責任限定契約の内容の概要

当社は、業務執行取締役等でない取締役及び監査役がその期待される役割を十分に発揮できるように、定款において業務執行取締役等でない取締役及び監査役との間で、当社への損害賠償責任を一定の範囲に限定する契約を締結できる旨を定めております。これに基づき、社外取締役である後藤長八氏及び熊本倫章氏、社外監査役である小山史郎氏及び江戸忠氏は、当社との間で当該責任限定契約を締結しております。

その契約内容の概要は次のとおりであります。

- ・社外取締役及び社外監査役が任務を怠ったことによって当社に損害賠償責任を負う場合は、会社法第427条第1項の規定に基づき、法令で定める限度額を限度として、その責任を負う。
- ・上記の責任限定が認められるのは、当該社外取締役及び社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限るものとする。

#### (4) 会計監査人の状況

##### ① 名称

有限責任 あずさ監査法人

##### ② 報酬等の額

|                                     | 支 払 額 |
|-------------------------------------|-------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額                 | 45百万円 |
| 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 45百万円 |

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等が適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

##### ③ 非監査業務の内容

該当事項はありません。

##### ④ 会計監査人の解任又は不再任の決定方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

##### ⑤ 責任限定契約の内容の概要

会計監査人は、当社と会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しておりません。

## (5) 業務の適正を確保するための体制

当社は、コーポレートガバナンスの実効性を高め企業価値向上に資することを目的として、以下のとおり内部統制に関する体制の整備・充実を図っております。

### ① 取締役の職務の執行が法令等に適合するための体制

内部統制室を中心とした内部監査の実施、クイックレポート（「(6) 内部統制システムの運用状況の概要」（注）1）などにより取締役、使用人が互いに牽制し、コーポレートガバナンスを充実させると共に、社長を最高責任者とするコンプライアンス推進委員会を設置し、これらを推進しております。

### ② 業務の適正を確保するための体制

#### イ. 情報保存管理体制

取締役会議事録、株主総会議事録、稟議書など取締役の職務の執行に関する情報、資料などの管理については、「文書管理規程」などにより作成、保存、管理を行っております。

#### ロ. リスク管理体制

事業活動に潜在するリスクを設定し、危機管理委員会の各グループにて当該リスクの予防及び対策を検討し、危機管理に関する規程類の制定、見直し、教育、指導を行っております。また、緊急事態又はその恐れがある場合には、社長を対策本部長とした危機管理対策本部を設置し、その対応に当たっております。

#### ハ. 効率的職務執行体制

原則として毎月第5営業日に定例の、また適宜必要に応じて取締役会を開催し、現状及び重要課題に関する議論を行い、中長期については予算会議等を通して計画の適正化を図る事で執行の効率化を図っております。なお、当社においては、時期を捉えた迅速な意思決定が必要な事項については、取締役会において選定した特別取締役による決議を行います。



## ニ. コンプライアンス体制

コンプライアンス推進委員会を設置し、事業活動に関連する法令、企業倫理、ドウシシャグループ企業行動憲章、社員行動規範、社内規程などの遵守を確保するため、同志社DNAスクール（「(6) 内部統制システムの運用状況の概要」（注）2）などを通じた教育、研修を実施し、検証しております。

### ③ グループ会社の業務の適正を確保するための体制

連結経営を念頭に、関係会社管理規程や業務分掌などに基づき業務の適正化を図ると共に、当社での役員会開催など親密な意思疎通を図っております。

## イ. 子会社の情報管理体制

グループ全体での事業計画発表会開催や、当社での取締役会開催など親密な意思疎通を図っているほか、主要な議案については事前協議をし、子会社の取締役への報告事項を把握しております。また、当社の取締役会には子会社からの業績報告を含んでおります。

## ロ. 子会社のリスク管理体制

危機管理に関する規程類はグループ各社で共有しており、必要に応じて当社の危機管理委員会において、対策を協議する体制を構築しております。

## ハ. 子会社の効率的職務執行体制

子会社担当役員が職務の執行について、必要に応じて指導を行っております。また、中長期的には経営計画を当社がレビューし、その内容を精査、指導しております。

## ニ. 子会社のコンプライアンス体制

当社のコンプライアンス推進委員会の子会社の事業活動における法令、企業倫理、社内規程などの遵守を確認しており、同志社DNAスクールなどを通じて教育、研修を実施しております。

#### ④ 監査役監査の体制

監査役は、監査方針に基づく監査事項、クイックレポートや内部通報に関する規程に基づく法令違反その他コンプライアンス上の事案について、適宜助言や是正勧告を行うなど内部統制が有効に機能するよう努めており、会社は以下の体制を整備しております。

##### イ. 監査役の補助使用人に関する事項

監査役は必要に応じて補助使用人を置く事が認められており、法務部及び内部統制室のメンバーが補助使用人として監査役及び監査役会の職務執行を補助しております。

##### ロ. 監査役の補助使用人の独立性に関する事項

監査役及び監査役会の職務を補佐する補助使用人の人事異動、報酬などについては事前相談などにより独立性を確保するような措置をとっております。

##### ハ. 監査役の補助使用人への指示の実効性に関する事項

監査役からの指示を受けた補助使用人は、適宜指示内容についての報告を監査役に実施しております。

#### 二. 監査役への内部報告体制

当社及び子会社の取締役及び使用人は、当社及び子会社に著しい損害が発生する事実、又は法令・定款に違反する行為の恐れがあると知った場合もしくは監査役から報告を求められた場合、いずれも関係資料を開示し、その説明を行う事ができ、監査役はいつでも必要に応じて取締役及び使用人に対して報告を求めることができます。

また、監査役がいつでも使用人作成のクイックレポートを閲覧できる体制を構築しております。

##### ホ. 監査役への報告者の保護体制

内部通報規則において、内部通報に関する情報も種類や相手先について制約することなく、また、通報者に不利益のある扱いをしないことを明示、徹底しております。

## へ. 監査役の独任制に関する事項

監査役には、職務執行の必要に応じて必要な費用の前払い、精算が認められております。また、当社は、監査役の職務執行のため、一定額の予算を設けております。

## ト. 監査役の実効性を担保するための体制

監査役は、四半期に一度、定期的にまた必要に応じて代表取締役、会計監査人と意見、情報交換を行うと共に、監査方針に基づく監査事項、クイックレポートや内部通報に関する規程に基づく法令違反その他コンプライアンス上の事案について、適宜助言や是正勧告を行っております。

## (6) 内部統制システムの運用状況の概要

### ① 取締役の職務の執行が法令等に適合するための体制

内部統制室を中心とした内部監査、クイックレポートなどにより取締役、使用人が互いに牽制し、コーポレートガバナンスを充実させると共に、社長を最高責任者とするコンプライアンス推進委員会を設置し、定期的に委員会を開催してコンプライアンスの遵守状況を評価、必要に応じて業務執行の見直し等を実施しております。

### ② 業務の適正を確保するための体制

業務の適正を確保するため、当社では原則として毎月第5営業日に定例の、また適宜必要に応じて取締役会を開催し、現状及び重要課題に関する議論を行い、中長期については予算会議等を通して計画の適正化を図る事で執行の効率化を図っております。

また、定期的及び必要に応じて社長を委員長とする危機管理委員会を開催し、リスクの状況を評価し、必要に応じて業務執行の見直し等を実施しております。

### ③ グループ会社の業務の適正を確保するための体制

連結経営を念頭に、関係会社管理規程や業務分掌などに基づき業務の適正化を図ると共に、当社での役員会開催など親密な意思疎通を図っております。

また、コンプライアンス、リスク管理等の観点ではグループとして共通の上記枠組みで運用する事で、事業規模に関わらず親会社と同等の管理を実現しております。

### ④ 監査役監査の体制

監査役は、監査方針に基づく監査事項、クイックレポートや内部通報に関する規程に基づく法令違反その他コンプライアンス上の事案について、適宜助言や是正勧告を行うなど内部統制が有効に機能するよう努めており、独立性の高い内部統制室（内部監査部門）が監査役を補助する事で監査役監査の効率性、実効性を高めております。

- (注) 1. 業務改善情報を迅速に会社に報告するための当社独自の仕組みを指し、電子化されたワークフローシステムであります。  
2. 当社の社内研修制度の中核となる、社員教育専門機能を指します。

### (7) 会社の支配に関する基本方針

該当事項はありません。

### (8) 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社グループは、株主の皆様に対する適切な利益還元を経営の最重要政策と位置づけ、積極的かつ安定的な配当の維持継続に留意するとともに、社員の成果に対する報酬制度も考慮し、経営環境の変化に対応できる企業体質の強化と将来の新規事業展開に備えて、内部留保にも配慮していく所存であります。

今後も引き続き、業績向上と財務体質の強化を図りながら経営基盤を強化し、株主の皆様のご期待に沿うべく努力してまいります。

# 連結貸借対照表

(2018年3月31日現在)

| 科 目       | 金 額    | 科 目          | 金 額    |
|-----------|--------|--------------|--------|
| (資産の部)    | 百万円    | (負債の部)       | 百万円    |
| 流動資産      | 64,976 | 流動負債         | 11,095 |
| 現金及び預金    | 35,986 | 買掛金          | 6,259  |
| 受取手形及び売掛金 | 15,828 | リース債務        | 100    |
| 電子記録債権    | 3,226  | 未払法人税等       | 1,534  |
| 商品及び製品    | 8,368  | 未払消費税等       | 11     |
| 前渡金       | 618    | 繰延税金負債       | 2      |
| 未収入金      | 280    | 役員賞与引当金      | 34     |
| 繰延税金資産    | 282    | 賞与引当金        | 26     |
| その他       | 391    | その他          | 3,126  |
| 貸倒引当金     | △5     | 固定負債         | 9,297  |
| 固定資産      | 22,010 | 長期借入金        | 8,000  |
| 有形固定資産    | 18,914 | リース債務        | 534    |
| 建物及び構築物   | 8,751  | 繰延税金負債       | 0      |
| 土地        | 9,174  | 退職給付に係る負債    | 582    |
| リース資産     | 589    | 資産除去債務       | 58     |
| その他       | 399    | 環境対策引当金      | 55     |
| 無形固定資産    | 127    | その他          | 65     |
| リース資産     | 42     | 負債合計         | 20,393 |
| その他       | 85     | (純資産の部)      |        |
| 投資その他の資産  | 2,968  | 株主資本         | 65,763 |
| 投資有価証券    | 1,420  | 資本金          | 4,993  |
| 関係会社株式    | 355    | 資本剰余金        | 6,226  |
| 破産更生債権等   | 13     | 利益剰余金        | 55,458 |
| 差入保証金     | 346    | 自己株式         | △913   |
| 繰延税金資産    | 97     | その他の包括利益累計額  | △76    |
| その他       | 748    | その他有価証券評価差額金 | 380    |
| 貸倒引当金     | △13    | 繰延ヘッジ損益      | △320   |
| 資産合計      | 86,987 | 為替換算調整勘定     | △11    |
|           |        | 退職給付に係る調整累計額 | △124   |
|           |        | 新株予約権        | 94     |
|           |        | 非支配株主持分      | 812    |
|           |        | 純資産合計        | 66,594 |
|           |        | 負債・純資産合計     | 86,987 |

# 連結損益計算書

(2017年4月1日から  
2018年3月31日まで)

| 科 目                 | 金 額   |         |
|---------------------|-------|---------|
|                     | 百万円   | 百万円     |
| 売上高                 |       | 103,589 |
| 売上原価                |       | 76,307  |
| 売上総利益               |       | 27,281  |
| 販売費及び一般管理費          |       | 19,512  |
| 営業利益                |       | 7,769   |
| 営業外収益               |       |         |
| 受取利息及び受取配当金         | 86    |         |
| 投資有価証券売却益           | 10    |         |
| 債務勘定整理益             | 52    |         |
| その他                 | 130   | 279     |
| 営業外費用               |       |         |
| 支払利息                | 4     |         |
| 支払手数料               | 25    |         |
| その他                 | 18    | 48      |
| 経常利益                |       | 8,001   |
| 特別利益                |       |         |
| 新株予約権戻入益            | 3     | 3       |
| 特別損失                |       |         |
| 環境対策引当金繰入額          | 3     | 3       |
| 税金等調整前当期純利益         |       | 8,001   |
| 法人税、住民税及び事業税        | 2,424 |         |
| 法人税等調整額             | △36   | 2,388   |
| 当期純利益               |       | 5,612   |
| 非支配株主に帰属する<br>当期純利益 |       | 122     |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 |       | 5,490   |

# 連結株主資本等変動計算書

(2017年4月1日から  
2018年3月31日まで)

(単位：百万円)

|                              | 株 主 資 本 |           |           |         |             |
|------------------------------|---------|-----------|-----------|---------|-------------|
|                              | 資 本 金   | 資 本 剰 余 金 | 利 益 剰 余 金 | 自 己 株 式 | 株 主 資 本 合 計 |
| 当連結会計年度期首残高                  | 4,993   | 6,043     | 51,761    | △3,777  | 59,021      |
| 当連結会計年度変動額                   |         |           |           |         |             |
| 剰余金の配当                       |         |           | △1,794    |         | △1,794      |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益          |         |           | 5,490     |         | 5,490       |
| 自己株式の処分                      |         | 182       |           | 2,863   | 3,046       |
| 株主資本以外の項目の当連結<br>会計年度変動額(純額) |         |           |           |         |             |
| 当連結会計年度変動額合計                 | —       | 182       | 3,696     | 2,863   | 6,742       |
| 当連結会計年度末残高                   | 4,993   | 6,226     | 55,458    | △913    | 65,763      |

|                              | その他の包括利益累計額          |             |              |                      |                       | 新株<br>予約権 | 非支配<br>主分<br>株持 | 純資産<br>合計 |
|------------------------------|----------------------|-------------|--------------|----------------------|-----------------------|-----------|-----------------|-----------|
|                              | その他有<br>価証券評<br>価差額金 | 繰延ヘッ<br>ジ損益 | 為替換算<br>調整勘定 | 退職給付<br>に係る調<br>整累計額 | その他の<br>包括利益<br>累計額合計 |           |                 |           |
| 当連結会計年度期首残高                  | 211                  | △193        | 18           | △189                 | △152                  | 456       | 929             | 60,255    |
| 当連結会計年度変動額                   |                      |             |              |                      |                       |           |                 |           |
| 剰余金の配当                       |                      |             |              |                      |                       |           |                 | △1,794    |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益          |                      |             |              |                      |                       |           |                 | 5,490     |
| 自己株式の処分                      |                      |             |              |                      |                       |           |                 | 3,046     |
| 株主資本以外の項目の当連結<br>会計年度変動額(純額) | 168                  | △127        | △30          | 64                   | 75                    | △362      | △116            | △403      |
| 当連結会計年度変動額合計                 | 168                  | △127        | △30          | 64                   | 75                    | △362      | △116            | 6,338     |
| 当連結会計年度末残高                   | 380                  | △320        | △11          | △124                 | △76                   | 94        | 812             | 66,594    |

## 連結注記表

### 1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記

#### (1) 連結の範囲に関する事項

##### 連結子会社の状況

- ・連結子会社の数 6社
- ・連結子会社の名称 株式会社ドウシシャロジスティクス  
ライフネット株式会社  
株式会社カリンピア  
麗港控股有限公司  
仁弘倉庫シンセン有限公司  
連雲港花茂日用品有限公司

##### 非連結子会社の状況

- ・主要な非連結子会社の名称 株式会社ドゥイング  
株式会社ドウシシャ・スタッフサービス  
一志商貿（上海）有限公司  
他8社
- ・連結の範囲から除いた理由 非連結子会社11社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼさないため連結の範囲から除外しております。

#### (2) 持分法の適用に関する事項

持分法を適用していない非連結子会社11社は、それぞれ当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

#### (3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、仁弘倉庫シンセン有限公司及び連雲港花茂日用品有限公司の決算日は12月31日であります。連結計算書類の作成に当たって、これらの会社については、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく計算書類を使用しております。

#### (4) 会計方針に関する事項

##### ① 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### ・その他の有価証券

##### 時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

##### 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

##### ・デリバティブ

時価法を採用しております。

##### ・たな卸資産

当社及び国内連結子会社は主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。



② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

- ・有形固定資産  
(リース資産を除く) 定率法  
ただし、当社及び国内連結子会社の1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備は除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用し、在外連結子会社は主として定額法を採用しております。  
なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

|            |       |
|------------|-------|
| 建物及び構築物    | 2～50年 |
| その他の有形固定資産 | 2～45年 |
- ・無形固定資産  
(リース資産を除く) 定額法  
なお、自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。
- ・リース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

③ 重要な引当金の計上基準

- ・貸倒引当金  
売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ・賞与引当金  
当社及び国内連結子会社は従業員に対して支給する賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額を計上しております。
- ・役員賞与引当金  
当社及び国内連結子会社は役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。
- ・環境対策引当金  
「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」によって処理することが義務づけられているPCB廃棄物の処理に備えるため、その処理費用見込額を計上しております。

④ その他連結計算書類作成のための重要な事項

1. 重要な外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産及び負債並びに収益及び費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

## 2. 退職給付に係る負債の計上基準

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

## 3. 重要なヘッジ会計の処理方法

- ・ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっております。  
ただし、為替予約取引につき振当処理の要件を満たした場合には振当処理によっております。
  - ・ヘッジ手段とヘッジ対象
    - ヘッジ手段 為替予約取引
    - ヘッジ対象 外貨建営業債権債務及び外貨建予定取引
  - ・ヘッジ方針 為替予約取引については、原則として、全ての外貨建取引につきフルヘッジする方針であります。
  - ・ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ対象とヘッジ手段につき、明らかに有効性が図られていると認められる場合を除き、各々の損益またはキャッシュ・フローの変動累計額を比較する方法により行っております。
  - ・その他 当社の内部規程で定める「業務分掌規程」に基づき、ヘッジ有効性評価等デリバティブ取引の管理は、財務経理部が担当しており、デリバティブの実行状況及びヘッジ有効性の評価は、定期的にまた必要あるごとに取締役会に報告することとしております。
4. のれんの償却に関する事項 のれんの償却については、個別案件ごとに検討し、20年以内で均等償却を行っております。
5. 消費税等の会計処理 税抜方式によっております。

## 2. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 5,741百万円

(2) 期日満期手形

当連結会計年度末日満期手形の会計処理については、当連結会計年度の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当連結会計年度末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

|        |        |
|--------|--------|
| 受取手形   | 222百万円 |
| 電子記録債権 | 44百万円  |

### 3. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

#### (1) 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度<br>期首の株式数<br>(千株) | 当連結会計年度<br>増加株式数<br>(千株) | 当連結会計年度<br>減少株式数<br>(千株) | 当連結会計年度<br>末の株式数<br>(千株) |
|-------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 普通株式  | 37,375                    | —                        | —                        | 37,375                   |

#### (2) 自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類    | 当連結会計年度<br>期首の株式数<br>(千株) | 当連結会計年度<br>増加株式数<br>(千株) | 当連結会計年度<br>減少株式数<br>(千株) | 当連結会計年度<br>末の株式数<br>(千株) |
|----------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 普通株式 (注) | 1,856                     | —                        | 1,407                    | 448                      |

(注) 普通株式の自己株式の減少1,407千株は、2014年6月27日開催の取締役会の決議に基づき付与されたストック・オプションの権利行使によるものです。

#### (3) 剰余金の配当に関する事項

##### ① 配当金支払額等

| (決議)                 | 株式の種類 | 配当金の総額<br>(百万円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日        | 効力発生日       |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|------------|-------------|
| 2017年6月29日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 887             | 25.0            | 2017年3月31日 | 2017年6月30日  |
| 2017年10月31日<br>取締役会  | 普通株式  | 906             | 25.0            | 2017年9月30日 | 2017年12月11日 |

##### ② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

2018年6月28日開催予定の第42回定時株主総会において次のとおり付議いたします。

- ・ 配当金の総額 923百万円
- ・ 配当の原資 利益剰余金
- ・ 1株当たり配当額 25.0円
- ・ 基準日 2018年3月31日
- ・ 効力発生日 2018年6月29日

#### (4) 当連結会計年度末の新株予約権（権利行使期間の初日が到来していないものを除く。）の目的となる株式の種類及び数

- ・ 普通株式 370,400株

#### 4. 金融商品に関する注記

##### (1) 金融商品の状況に関する事項

###### ① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入による方針であります。デリバティブは、為替変動リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

###### ② 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金並びに電子記録債権は信用リスクに晒されており、当該リスクに関しましては、債権管理回収実施手順書等に従い、各主管部門におけるダイレクターが主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先等相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が取締役に報告されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

デリバティブ取引は外貨建営業債権債務に係る将来の為替レートの変動リスクを軽減又は回避を目的とした、為替予約取引であり、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記「(4)会計方針に関する事項④その他連結計算書類作成のための重要な事項3. 重要なヘッジ会計の処理方法」をご参照ください。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた社内規程に従って行っており、また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、取引を継続的に行っている銀行とのみ取引を行っております。

長期借入金の使途は主として運転資金に係る資金調達であります。

資金調達に係る流動性リスクにつきましては、財務経理部が適時に資金繰計画を作成・更新する等の方法により管理しております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2018年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは次表には含めておりません（（注）2.をご参照ください。）。

|                                | 連結貸借対照表計上額<br>(百万円) | 時価 (百万円) | 差額 (百万円) |
|--------------------------------|---------------------|----------|----------|
| (1) 現金及び預金                     | 35,986              | 35,986   | —        |
| (2) 受取手形及び売掛金                  | 15,828              | 15,828   | —        |
| (3) 電子記録債権                     | 3,226               | 3,226    | —        |
| (4) 投資有価証券<br>その他有価証券          | 1,319               | 1,319    | —        |
| 資産計                            | 56,361              | 56,361   | —        |
| (1) 買掛金                        | 6,259               | 6,259    | —        |
| (2) 長期借入金                      | 8,000               | 8,002    | 2        |
| 負債計                            | 14,259              | 14,261   | 2        |
| デリバティブ取引（*）<br>ヘッジ会計が適用されているもの | (462)               | (462)    | —        |
| デリバティブ取引計                      | (462)               | (462)    | —        |

（\*）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しております。

（注）1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

- (1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金 並びに(3) 電子記録債権

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (4) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。

負 債

- (1) 買掛金

買掛金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (2) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

### デリバティブ取引

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。なお、ヘッジ会計が適用されているもののうち為替予約の振当処理によるもの（予定取引をヘッジ対象としているものを除く。）は、ヘッジ対象とされている受取手形及び売掛金、電子記録債権並びに買掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該受取手形及び売掛金、電子記録債権並びに買掛金の時価に含めて記載しております（上記、資産(2)、(3)、負債(1)参照）。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

| 区分    | 連結貸借対照表計上額（百万円） |
|-------|-----------------|
| 非上場株式 | 100             |

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「資産(4)投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

### 5. 1株当たり情報に関する注記

|                       |           |
|-----------------------|-----------|
| (1) 1株当たり純資産額         | 1,778円84銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益        | 151円97銭   |
| (3) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益 | 151円14銭   |

## 6. 重要な後発事象に関する注記

(子会社の設立)

当社は、2018年3月7日開催の取締役会において、当社連結子会社である麗港控股有限公司の子会社（孫会社）を生産設備の増強及び生産の効率化のため設立することを決議し、2018年4月23日付で設立いたしました。

|             |                                  |
|-------------|----------------------------------|
| 名 称         | 連雲港花茂実業有限公司                      |
| 所 在 地       | 中国 連雲港市                          |
| 代 表 者       | 董事長 顧 頌杰                         |
| 主 な 事 業 内 容 | 製造業                              |
| 資 本 金       | 1百万米ドル<br>(約106百万円 1米ドル=106.25円) |
| 設 立 年 月 日   | 2018年4月23日                       |
| 決 算 期       | 12月期                             |
| 出 資 比 率     | 麗港控股有限公司 100%<br>(当社間接50%)       |

(子会社の増資)

当社は、2018年5月7日開催の取締役会において、連雲港花茂実業有限公司の設備投資を目的とした出資のため、当社連結子会社である麗港控股有限公司への増資を行うことを決議いたしました。

|         |                                                            |
|---------|------------------------------------------------------------|
| 増 資 額   | 4百万米ドル<br>(約425百万円 1米ドル=106.25円)                           |
| 払 込 日   | 2018年5月16日                                                 |
| 資 本 金   | 増資前 84,410千HK \$<br>増資後 115,806千HK \$<br>(1米ドル=7.849HK \$) |
| 出 資 比 率 | 当社50% 顧 頌杰氏50%                                             |

# 貸借対照表

(2018年3月31日現在)

| 科 目          | 金 額    | 科 目          | 金 額    |
|--------------|--------|--------------|--------|
| (資産の部)       | 百万円    | (負債の部)       | 百万円    |
| 流動資産         | 61,043 | 流動負債         | 10,015 |
| 現金及び預金       | 34,474 | 買掛金          | 5,333  |
| 受取手形         | 625    | リース債務        | 80     |
| 電子記録債権       | 2,831  | 未払金          | 2,283  |
| 売掛金          | 14,129 | 未払費用         | 248    |
| 商品及び製品       | 7,613  | 未払法人税等       | 1,402  |
| 前渡金          | 497    | 前受金          | 159    |
| 前払費用         | 59     | 預り金          | 59     |
| 繰延税金資産       | 249    | 前受収益         | 8      |
| その他          | 567    | 役員賞与引当金      | 25     |
| 貸倒引当金        | △5     | 賞与引当金        | 19     |
| 固定資産         | 21,399 | その他          | 393    |
| 有形固定資産       | 15,873 | 固定負債         | 9,060  |
| 建物           | 8,188  | 長期借入金        | 8,000  |
| 構築物          | 264    | リース債務        | 506    |
| 機械装置         | 111    | 退職給付引当金      | 373    |
| 器具備品         | 165    | 資産除去債務       | 58     |
| 土地           | 6,601  | 環境対策引当金      | 55     |
| リース資産        | 542    | その他          | 65     |
| 無形固定資産       | 82     | 負債合計         | 19,075 |
| 借地権          | 14     | (純資産の部)      |        |
| 商標権          | 4      | 株主資本         | 63,159 |
| ソフトウェア       | 12     | 資本金          | 4,993  |
| リース資産        | 42     | 資本剰余金        | 6,226  |
| その他          | 8      | 資本準備金        | 5,994  |
| 投資その他の資産     | 5,443  | その他資本剰余金     | 231    |
| 投資有価証券       | 1,417  | 利益剰余金        | 52,853 |
| 関係会社株式       | 1,344  | 利益準備金        | 166    |
| 長期貸付金        | 30     | その他利益剰余金     | 52,687 |
| 従業員に対する長期貸付金 | 3      | 圧縮記帳積立金      | 18     |
| 関係会社長期貸付金    | 1,578  | 別途積立金        | 42,600 |
| 破産更生債権等      | 13     | 繰越利益剰余金      | 10,068 |
| 長期前払費用       | 40     | 自己株式         | △913   |
| 繰延税金資産       | 35     | 評価・換算差額等     | 112    |
| その他          | 994    | その他有価証券評価差額金 | 380    |
| 貸倒引当金        | △13    | 繰延ヘッジ損益      | △267   |
| 資産合計         | 82,442 | 新株予約権        | 94     |
|              |        | 純資産合計        | 63,366 |
|              |        | 負債・純資産合計     | 82,442 |



# 損益計算書

(2017年4月1日から  
2018年3月31日まで)

| 科 目          | 金 額    | 金 額    |
|--------------|--------|--------|
|              | 百万円    | 百万円    |
| 売上高          |        | 96,181 |
| 売上原価         |        |        |
| 商品期首たな卸高     | 7,641  |        |
| 当期商品仕入高      | 70,861 |        |
| 合 計          | 78,503 |        |
| 商品期末たな卸高     | 7,613  |        |
| 商品売上原価       |        | 70,890 |
| 売上総利益        |        | 25,291 |
| 販売費及び一般管理費   |        | 18,318 |
| 営業利益         |        | 6,972  |
| 営業外収益        |        |        |
| 受取利息         | 6      |        |
| 受取配当金        | 303    |        |
| 投資有価証券売却益    | 10     |        |
| 債務勘定整理益      | 52     |        |
| 関係会社受取業務管理料  | 18     |        |
| その他          | 85     | 476    |
| 営業外費用        |        |        |
| 支払利息         | 4      |        |
| 支払手数料        | 25     |        |
| 為替差損         | 1      |        |
| 固定資産除却損      | 1      |        |
| その他          | 10     | 43     |
| 経常利益         |        | 7,405  |
| 特別利益         |        |        |
| 新株予約権戻入益     | 3      | 3      |
| 特別損失         |        |        |
| 環境対策引当金繰入額   | 3      | 3      |
| 税引前当期純利益     |        | 7,405  |
| 法人税、住民税及び事業税 | 2,237  |        |
| 法人税等調整額      | △32    | 2,205  |
| 当期純利益        |        | 5,200  |

# 株主資本等変動計算書

(2017年4月1日から  
2018年3月31日まで)

(単位：百万円)

|                         | 株 主 資 本 |           |               |              |              |                 |             |        |              |
|-------------------------|---------|-----------|---------------|--------------|--------------|-----------------|-------------|--------|--------------|
|                         | 資 本 金   | 資 本 剰 余 金 |               |              | 利 益 剰 余 金    |                 |             |        |              |
|                         |         | 資本準備金     | その 他<br>資本剰余金 | 資本剰余金<br>合 計 | 利 益<br>準 備 金 | そ の 他 利 益 剰 余 金 |             |        | 利益剰余金<br>合 計 |
|                         |         |           |               |              | 圧縮記帳<br>積立金  | 別 途<br>積立金      | 繰越利益<br>剰余金 |        |              |
| 当 期 首 残 高               | 4,993   | 5,994     | 49            | 6,043        | 166          | 20              | 40,100      | 9,160  | 49,447       |
| 当 期 変 動 額               |         |           |               |              |              |                 |             |        |              |
| 剰 余 金 の 配 当             |         |           |               |              |              |                 |             | △1,794 | △1,794       |
| 圧縮記帳積立金の取崩              |         |           |               |              |              | △1              |             | 1      | —            |
| 別途積立金の積立                |         |           |               |              |              |                 | 2,500       | △2,500 | —            |
| 当 期 純 利 益               |         |           |               |              |              |                 |             | 5,200  | 5,200        |
| 自己株式の処分                 |         |           | 182           | 182          |              |                 |             |        |              |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） |         |           |               |              |              |                 |             |        |              |
| 当 期 変 動 額 合 計           | —       | —         | 182           | 182          | —            | △1              | 2,500       | 907    | 3,406        |
| 当 期 末 残 高               | 4,993   | 5,994     | 231           | 6,226        | 166          | 18              | 42,600      | 10,068 | 52,853       |

|                         | 株 主 資 本 |        | 評 価 ・ 換 算 差 額 等               |                  |                        | 新株予約権 | 純資産合計  |
|-------------------------|---------|--------|-------------------------------|------------------|------------------------|-------|--------|
|                         | 自己株式    | 株主資本合計 | そ の 他<br>有 価 証 券<br>評 価 差 額 金 | 繰 延 へ ッ<br>シ 損 益 | 評 価 ・ 換 算<br>差 額 等 合 計 |       |        |
| 当 期 首 残 高               | △3,777  | 56,707 | 211                           | △185             | 26                     | 456   | 57,190 |
| 当 期 変 動 額               |         |        |                               |                  |                        |       |        |
| 剰 余 金 の 配 当             |         | △1,794 |                               |                  |                        |       | △1,794 |
| 圧縮記帳積立金の取崩              |         | —      |                               |                  |                        |       | —      |
| 別途積立金の積立                |         | —      |                               |                  |                        |       | —      |
| 当 期 純 利 益               |         | 5,200  |                               |                  |                        |       | 5,200  |
| 自己株式の処分                 | 2,863   | 3,046  |                               |                  |                        |       | 3,046  |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） |         | —      | 168                           | △81              | 86                     | △362  | △275   |
| 当 期 変 動 額 合 計           | 2,863   | 6,452  | 168                           | △81              | 86                     | △362  | 6,176  |
| 当 期 末 残 高               | △913    | 63,159 | 380                           | △267             | 112                    | 94    | 63,366 |

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

- |               |                                                                 |
|---------------|-----------------------------------------------------------------|
| ① 子会社及び関連会社株式 | 移動平均法による原価法を採用しております。                                           |
| ② その他有価証券     |                                                                 |
| ・時価のあるもの      | 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。 |
| ・時価のないもの      | 移動平均法による原価法を採用しております。                                           |
| ③ デリバティブ      | 時価法を採用しております。                                                   |
| ④ たな卸資産       | 主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。  |

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

- |                        |                                                                                                                                                                                                                                                      |    |       |           |       |
|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-------|-----------|-------|
| ① 有形固定資産<br>(リース資産を除く) | 定率法<br>ただし、当社の1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。<br>なお、主な耐用年数は次のとおりであります。 <table border="0" style="margin-left: 20px;"><tr><td>建物</td><td>2～50年</td></tr><tr><td>その他有形固定資産</td><td>2～45年</td></tr></table> | 建物 | 2～50年 | その他有形固定資産 | 2～45年 |
| 建物                     | 2～50年                                                                                                                                                                                                                                                |    |       |           |       |
| その他有形固定資産              | 2～45年                                                                                                                                                                                                                                                |    |       |           |       |
| ② 無形固定資産<br>(リース資産を除く) | 定額法<br>なお、自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。                                                                                                                                                                                          |    |       |           |       |
| ③ リース資産                | リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。                                                                                                                                                                                                                  |    |       |           |       |

#### (3) 引当金の計上基準

- |           |                                                                                                                       |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 貸倒引当金   | 売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。                                    |
| ② 退職給付引当金 | 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。<br>なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。 |

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

計算書類において、未認識数理計算上の差異の貸借対照表における取扱いが連結計算書類と異なっております。

個別貸借対照表上、退職給付債務に未認識数理計算上の差異を加減した額を退職給付引当金に計上しております。

③ 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に備えて、当事業年度における支給見込額を計上しております。

④ 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えて、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

⑤ 環境対策引当金

「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」によって処理することが義務づけられているPCB廃棄物の処理に備えるため、その処理費用見込額を計上しております。

(4) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

① 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

② 重要なヘッジ会計の方法

・ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

ただし、為替予約取引につき振当処理の要件を満たした場合には振当処理によっております。

・ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

為替予約取引

ヘッジ対象

外貨建営業債権債務及び外貨建予定取引

・ヘッジ方針

為替予約取引については、原則として全ての外貨建取引につきフルヘッジする方針であります。

・ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ対象とヘッジ手段につき、明らかに有効性が図られていると思われる場合を除き、各々の損益又はキャッシュ・フローの変動累計額を比較する方法によっております。

③ 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

## 2. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 5,156百万円

(2) 関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりであります。

① 短期金銭債権 179百万円

② 短期金銭債務 653百万円

(3) 期日満期手形

当事業年度末日満期手形の会計処理については、当事業年度の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当事業年度末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

受取手形 74百万円

電子記録債権 44百万円

## 3. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

① 売上高 778百万円

② 仕入高 1,485百万円

③ 販売費及び一般管理費 7,511百万円

④ 営業取引以外の取引高 316百万円

## 4. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類    | 当事業年度期首の株式数 (千株) | 当事業年度増加株式数 (千株) | 当事業年度減少株式数 (千株) | 当事業年度末の株式数 (千株) |
|----------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 普通株式 (注) | 1,856            | —               | 1,407           | 448             |

(注) 普通株式の自己株式の減少1,407千株は、2014年6月27日開催の取締役会の決議に基づき付与されたストック・オプションの権利行使によるものです。

## 5. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(流動の部)

|           |        |
|-----------|--------|
| 繰延税金資産    |        |
| 未払事業税     | 77百万円  |
| 商品評価損     | 14百万円  |
| その他       | 158百万円 |
| 繰延税金資産合計  | 250百万円 |
| 繰延税金負債    |        |
| 固定資産圧縮積立金 | △0百万円  |
| その他       | △0百万円  |
| 繰延税金負債合計  | △0百万円  |
| 繰延税金資産の純額 | 249百万円 |

(固定の部)

|              |         |
|--------------|---------|
| 繰延税金資産       |         |
| 貸倒引当金        | 4百万円    |
| 退職給付引当金      | 114百万円  |
| 環境対策引当金      | 17百万円   |
| 投資有価証券評価損    | 3百万円    |
| 関係会社株式評価損    | 38百万円   |
| その他          | 33百万円   |
| 繰延税金資産合計     | 210百万円  |
| 繰延税金負債       |         |
| 固定資産圧縮積立金    | △7百万円   |
| その他有価証券評価差額金 | △167百万円 |
| 繰延税金負債合計     | △175百万円 |
| 繰延税金資産の純額    | 35百万円   |

## 6. 関連当事者との取引に関する注記

### (1) 子会社及び関連会社等

| 種類  | 会社等の名称       | 資本金又は出資金     | 事業の内容又は職業 | 議決権等の所有(被所有)割合  | 関連当事者との関係                       | 取引の内容            | 取引金額(百万円) | 科目  | 期末残高(百万円) |
|-----|--------------|--------------|-----------|-----------------|---------------------------------|------------------|-----------|-----|-----------|
| 子会社 | 麗港控股有限公司     | 84,410千HK \$ | 貿易業       | (所有)<br>直接 50%  | 当社輸入商品の検品業務及び海外物流業務の委託<br>役員の兼任 | 商品仕入<br>(注) ①    | 1,178     | 買掛金 | 23        |
|     |              |              |           |                 |                                 | 受取配当金            | 219       | —   | —         |
|     | ㈱ドウシヤロジスティクス | 50百万円        | 物流事業      | (所有)<br>直接 100% | 物流業務の委託<br>役員の兼任                | 運賃・倉庫料           | 6,364     | 未払金 | 603       |
|     |              |              |           |                 |                                 | 資金援助の貸付<br>(注) ② | —         | 貸付金 | 1,637     |

#### 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) ①仕入価格は、取引の都度決定しており、市場の実勢価格を勘案して決定しております。

②資金の貸付については、市場の金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

#### 2. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

## (2) 役員及び個人主要株主等

| 種類                         | 会社等の名称        | 資本金又は出資金 | 事業の内容又は職業         | 議決権等の所有(被所有)割合 | 関連当事者との関係              | 取引の内容                 | 取引金額(百万円) | 科目   | 期末残高(百万円) |
|----------------------------|---------------|----------|-------------------|----------------|------------------------|-----------------------|-----------|------|-----------|
| 役員                         | 野村 正治         | —        | 代表取締役会長           | (被所有)直接2.9%    | —                      | ストック・オプションの行使<br>(注)① | 64        | —    | —         |
|                            | 野村 正幸         | —        | 代表取締役社長           | (被所有)直接0.2%    | —                      | ストック・オプションの行使<br>(注)① | 23        | —    | —         |
|                            | 金原 利根里        | —        | 代表取締役副会長          | (被所有)直接0.2%    | —                      | ストック・オプションの行使<br>(注)① | 76        | —    | —         |
|                            | 二木 和宏         | —        | 取締役兼専務執行役員        | (被所有)直接0.1%    | —                      | ストック・オプションの行使<br>(注)① | 70        | —    | —         |
|                            | 松本 崇裕         | —        | 取締役兼執行役員          | (被所有)直接0.0%    | —                      | ストック・オプションの行使<br>(注)① | 13        | —    | —         |
|                            | 熊本 倫章         | —        | 社外取締役             | (被所有)直接0.0%    | —                      | ストック・オプションの行使<br>(注)① | 13        | —    | —         |
|                            | 藤本 利博         | —        | 監査役               | (被所有)直接0.1%    | —                      | ストック・オプションの行使<br>(注)① | 76        | —    | —         |
|                            | 坂本 明          | —        | 監査役               | (被所有)直接0.0%    | —                      | ストック・オプションの行使<br>(注)① | 13        | —    | —         |
| 役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社 | エムエス商事(株)     | 15百万円    | 不動産の賃貸業、損害保険代理店業務 | (被所有)直接34.4%   | 当社の損害保険代理業、不動産の賃借役員の兼任 | 損害保険料の支払<br>(注)②      | 22        | 前払費用 | 4         |
|                            |               |          |                   |                |                        | 賃借料の支払<br>(注)③        | 177       | 前払費用 | 15        |
|                            | 通販ドットTOKYO(株) | 11百万円    | ネット通販             | —              | 当社商品の販売                | 商品売上<br>(注)④          | 389       | 売掛金  | 46        |

## 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(注)①2014年6月27日開催の取締役会の決議に基づき付与されたストック・オプションによる、当事業年度における権利行使を記載しております。なお、取引金額は、当事業年度におけるストック・オプションの権利行使による付与株式に振込金額を乗じた金額を記載しております。

②損害保険の支払については、損害保険会社から提示された価格によっております。

③賃借料の支払については、不動産鑑定評価額に基づき決定しております。

④商品売上については、一般の取引条件と同様に決定しております。



2. 前事業年度末において主要株主であった有限会社野村興産は、2018年3月23日をもってエムエス商事株式会社に吸収合併されたため、当事業年度末では主要株主ではなくなりました。
3. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

#### 7. 1株当たり情報に関する注記

|                       |           |
|-----------------------|-----------|
| (1) 1株当たり純資産額         | 1,713円45銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益        | 143円95銭   |
| (3) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益 | 143円16銭   |

# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2018年5月7日

株式会社ドウシシャ  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 和田 安 弘 ⑩  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 杉 田 直 樹 ⑩  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社ドウシシャの2017年4月1日から2018年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ドウシシャ及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2018年5月7日

株式会社ドウシヤ  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 和田 安 弘 ⑩  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 杉 田 直 樹 ⑩  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社ドウシヤの2017年4月1日から2018年3月31日までの第42期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、2017年4月1日から2018年3月31日までの第42期事業年度の取締役の職務執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、監査役全員の一致した意見として本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部統制室、法務部その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
  - ①取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において、業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役等と意思疎通及び情報の交換を図り、子会社から事業の報告を受け、必要に応じて子会社に赴き、事業の実態を調査するとともに質問等を行いました。
  - ②事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
  - ③会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。  
また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を、「監査に関する品質管理基準」（2005年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。

また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人 有限責任あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人 有限責任あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2018年5月7日

株式会社ドウシシャ 監査役会

常勤監査役 藤本利博 ⑩

常勤監査役 坂本明 ⑩

監査役 小山史郎 ⑩  
(社外監査役)

監査役 江戸忠 ⑩  
(社外監査役)

以上

# 株主総会参考書類

## 第1号議案 剰余金処分の件

当社は、株主の皆様に対する適切な利益還元を経営の最重要政策と位置づけ、積極的かつ安定的な配当の維持継続に留意するとともに、社員の成果に対する報酬制度も考慮し、経営環境の変化に対応できる企業体質の強化と将来の新規事業展開に備えて内部留保にも配慮していくことを基本方針としております。

当期の期末配当及びその他の剰余金の処分につきましては、今後の事業展開等を勘案して以下のとおりといたしたいと存じます。

### 1. 期末配当に関する事項

#### ① 配当財産の種類

金銭といたします。

#### ② 配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき金25円といたしたいと存じます。

この場合の配当総額は923,170,700円となります。

なお、中間配当金として1株につき金25円をお支払いしておりますので、当期の年間配当金額は1株につき金50円となります。

#### ③ 剰余金の配当が効力を生じる日

2018年6月29日といたしたいと存じます。

### 2. その他の剰余金の処分に関する事項

#### ① 増加する剰余金の項目とその額

別途積立金 3,000,000,000円

#### ② 減少する剰余金の項目とその額

繰越利益剰余金 3,000,000,000円

## 第2号議案 取締役8名選任の件

取締役全員（7名）は、本総会終結の時をもって任期満了となります。

つきましては、経営体制の強化のため1名を増員し、取締役8名の選任をお願いいたしたいと存じます。

取締役候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号 | ふりがな氏名<br>(生年月日)                                                                                                                                                 | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                    | 所有する当社株式の数 |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 1     | のむらまさはる<br>野村正治<br>(1946年9月18日生)                                                                                                                                 | 1977年1月 当社設立<br>当社代表取締役社長就任<br>2014年4月 当社代表取締役会長兼最高経営責任者(現任)                                                                                                                                                                     | 1,073,383株 |
|       | <p><b>【取締役候補者とした理由】</b></p> <p>当社創業者として、設立以来40年以上にわたり当社の経営を指揮し、売上高1,000億円を超える流通サービス業グループへと成長させてきました。</p> <p>このような実績に裏付けられた経営者としての実力と見識により、引き続き取締役候補者としております。</p> |                                                                                                                                                                                                                                  |            |
| 2     | のむらまさゆき<br>野村正幸<br>(1972年6月3日生)                                                                                                                                  | 1998年1月 当社入社<br>2004年6月 当社取締役<br>2006年4月 当社常務取締役、PB本部長<br>2006年5月 当社第2事業本部長<br>2007年5月 当社専務取締役<br>2010年5月 当社代表取締役専務、IR広報担当<br>2011年4月 当社代表取締役兼副社長執行役員、営業統括兼IR広報担当<br>2014年4月 当社代表取締役社長兼最高執行責任者(現任)<br>(重要な兼職の状況)<br>エムエス商事(株)取締役 | 59,900株    |
|       | <p><b>【取締役候補者とした理由】</b></p> <p>入社以来、要職を歴任し、2014年4月から当社代表取締役社長を務める等、経営に関する豊富な経験・実績・見識を有しております。</p> <p>業務執行の統括・指揮に必要な能力・経験・見識を有しており、引き続き、取締役候補者としております。</p>        |                                                                                                                                                                                                                                  |            |

| 候補者<br>番号                                                                                                            | ふ り が な<br>氏 名<br>( 生 年 月 日 )        | 略 歴 、 当 社 に お け る 地 位 及 び 担 当<br>( 重 要 な 兼 職 の 状 況 )                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 所有する当<br>社株式の数 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 3                                                                                                                    | きん ばら とねり<br>金 原 利根里<br>(1952年8月5日生) | 1990年2月 当社入社<br>1995年6月 当社取締役<br>2001年6月 当社常務取締役<br>2002年11月 当社専務取締役<br>2004年12月 当社代表取締役副社長、P B本部長<br>2005年3月 当社P B本部長兼品質保証担当<br>2006年4月 当社営業統括兼I R広報担当<br>2006年7月 当社営業統括・品質保証兼I R広報担<br>当<br>2007年2月 当社営業統括・品質保証・関連会社事<br>業統括兼I R広報担当<br>2008年4月 当社営業統括兼I R広報担当<br>2010年7月 当社営業統括<br>2011年4月 当社代表取締役兼副社長執行役員、社<br>長補佐<br>2013年5月 当社社長補佐兼営業企画担当<br>2014年6月 当社代表取締役副会長兼会長補佐<br>(現任)<br>(重要な兼職の状況)<br>麗港控股有限公司董事長<br>一志商貿(上海)有限公司董事長<br>ライフネット(株)取締役<br>(株)カリンピア取締役<br>仁弘倉庫シンセン有限公司董事<br>連雲港花茂日用品有限公司董事 | 90,849株        |
| <b>【取締役候補者とした理由】</b><br>入社以来、要職を歴任し、2014年6月からは当社代表取締役副会長を務める等、<br>経営に関する豊富な経験・実績・見識を有していることから、引き続き取締役候補者<br>としております。 |                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                |



| 候補者<br>番号 | ふ り が な<br>氏 名<br>( 生 年 月 日 )           | 略 歴 、 当 社 に お け る 地 位 及 び 担 当<br>( 重 要 な 兼 職 の 状 況 )                                                                                                                                                                                                                                            | 所有する当<br>社株式の数 |
|-----------|-----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 4         | に き か ず ひろ<br>二 木 和 宏<br>(1955年11月1日生)  | 1983年10月 当社入社<br>1997年5月 当社第八事業カンパニープレジデント<br>2004年4月 当社執行役員<br>2005年6月 当社取締役<br>2006年5月 当社第3事業本部長<br>2007年5月 当社常務取締役<br>2011年4月 当社取締役兼専務執行役員(現任)<br>2011年7月 当社第1事業本部長<br>2017年4月 当社第1事業本部長兼イタリア事務所<br>担当役員(現任)                                                                                 | 18,641株        |
|           |                                         | <p>【取締役候補者とした理由】</p> <p>入社以来、当社の営業分野において豊富な業務経験を有し、2011年4月から当社取締役兼専務執行役員を務める等、経営に関する豊富な経験・実績・見識を有していることから、引き続き取締役候補者としております。</p>                                                                                                                                                                |                |
| 5         | まつ もと たか ひろ<br>松 本 崇 裕<br>(1970年8月25日生) | 1994年4月 (株)大和銀行(現(株)りそな銀行)入社<br>2012年4月 当社入社、経営企画部ダイレクター<br>2013年8月 当社システム開発部統括ダイレクター、経営企画部ダイレクター兼IR広報担当<br>2014年6月 当社執行役員、システム開発担当役員兼財務経理部、貿易業務部、業務管理部統括ダイレクター<br>2015年4月 当社財務経理部、貿易業務部、業務管理部統括ダイレクター<br>2016年6月 当社取締役兼執行役員、財務経理、貿易業務、業務管理担当役員<br>2018年4月 当社取締役兼執行役員、財務経理、貿易業務、業務管理、審査担当役員(現任) | 342株           |
|           |                                         | <p>【取締役候補者とした理由】</p> <p>入社以来、当社の管理部門において幅広い業務経験を有し、2016年6月から当社取締役を務める等、経営に関する優れた能力・経験・見識を有していることから、引き続き取締役候補者としております。</p>                                                                                                                                                                       |                |

| 候補者<br>番号                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | ふ り が な<br>氏 名<br>( 生 年 月 日 )                                                                                                  | 略 歴 、 当 社 に お け る 地 位 及 び 担 当<br>( 重 要 な 兼 職 の 状 況 )                                                                                                                                                                                           | 所有する当<br>社株式の数 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 6                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">社外</div><br>ご とう ちよう はち<br>後 藤 長 人<br>(1945年2月9日生)  | 1972年1月 (株)しまむら入社<br>1985年5月 同社取締役<br>1987年5月 同社常務取締役<br>1990年5月 同社専務取締役<br>2009年5月 同社退任<br>2015年6月 当社取締役(現任)                                                                                                                                  | 3,493株         |
| <p><b>【社外取締役候補者とした理由】</b><br/>           長年にわたる企業経営者としての豊富な経験に基づき、当社経営に対して有益なご意見やご指摘をいただき、業務執行に対する適切な監督を行っていただいていることから、引き続き社外取締役候補者としております。</p> <p><b>【社外取締役としての在任期間】</b><br/>           社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって3年となります。</p>                                                                                                               |                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                |                |
| 7                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">社外</div><br>くま もと のり あき<br>熊 本 倫 章<br>(1947年11月9日生) | 1966年4月 大阪府警察官任官<br>2001年3月 布施警察署長<br>2002年3月 刑事部刑事総務課長<br>2003年3月 警務部監察室長<br>2004年3月 南警察署長<br>2005年3月 大阪市警察部長兼大阪府警察組織犯罪対策本部長<br>2006年1月 大阪府警察本部刑事部長<br>2008年3月 大阪府警察官退官<br>2008年4月 自動車安全運転センター大阪府事務所所長<br>2010年3月 同所所長退任<br>2015年6月 当社取締役(現任) | 10,456株        |
| <p><b>【社外取締役候補者とした理由】</b><br/>           大阪府警察本部刑事部長や同組織犯罪対策本部長を歴任された幅広い経験に基づき、当社経営に対して有益なご意見やご指摘をいただき、業務執行に対する適切な監督を行っていただいております。</p> <p>なお、同氏は、社外役員となること以外の方法で直接会社経営に関与された経験はありませんが、警察組織での幅広い経験に基づき、社外取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断し、引き続き社外取締役候補者としております。</p> <p><b>【社外取締役としての在任期間】</b><br/>           社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって3年となります。</p> |                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                |                |

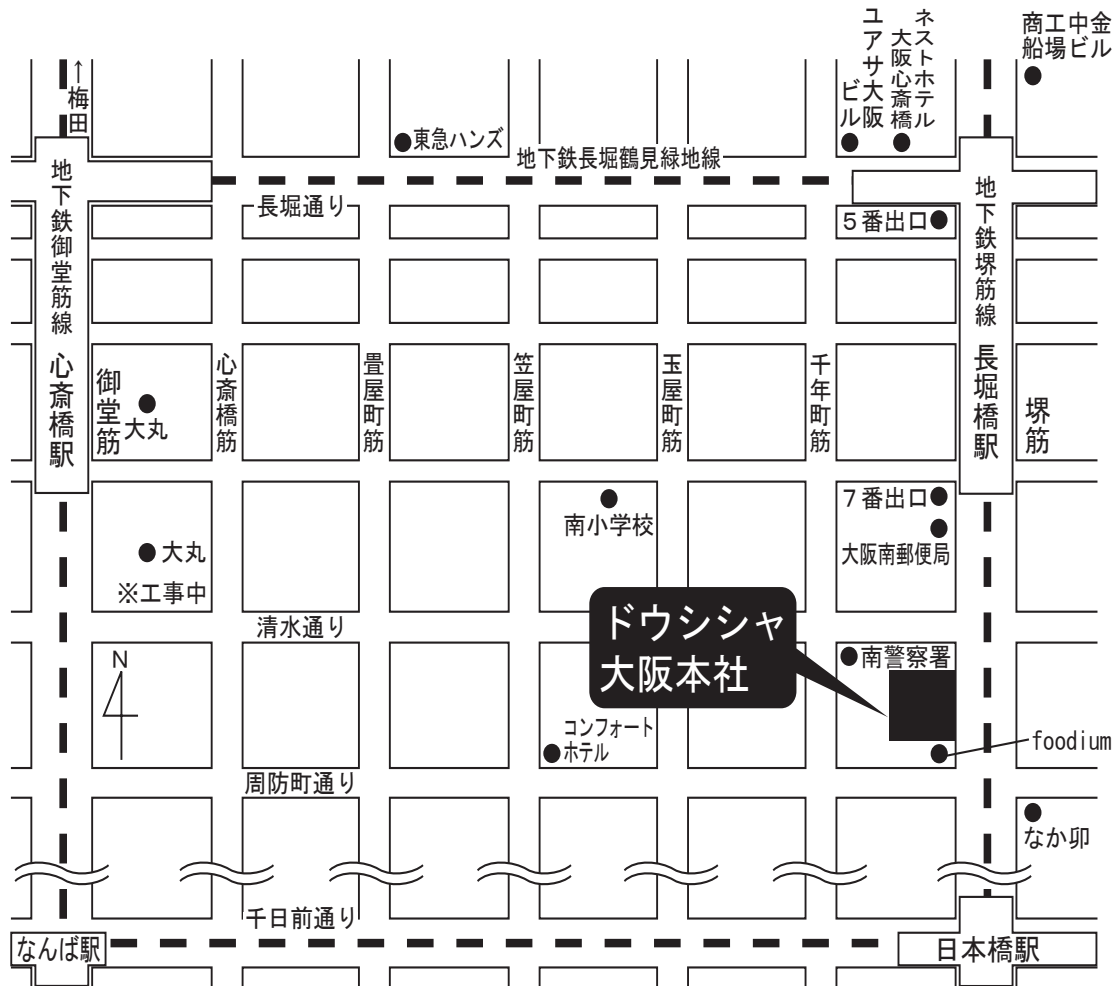
| 候補者<br>番号                                                                                                                             | ふ<br>氏<br>り<br>が<br>な<br>名<br>(生年月日)             | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                      | 所有する当<br>社株式の数 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 8                                                                                                                                     | ※<br>社外<br>たか ます けい じ<br>高 舛 啓 次<br>(1953年3月2日生) | 1977年4月 (株)住友銀行(現(株)三井住友銀行)<br>入社<br>2005年5月 同社執行役員<br>2008年5月 (株)関西アーバン銀行専務執行役員<br>2008年6月 同社専務取締役 兼 専務執行役員<br>2011年6月 (株)ロイヤルホテル専務執行役員<br>2012年6月 同社代表取締役副社長<br>2015年3月 同社代表取締役副社長 兼 (株)リーガ<br>ロイヤルホテル広島 代表取締役社長、<br>(株)リーガロイヤルホテル小倉 代表<br>取締役社長<br>2017年6月 同社退任 | 1,000株         |
| <b>【社外取締役候補者とした理由】</b><br>長年にわたり金融機関並びにホテル運営会社において要職を歴任され、金融や企業経営に関する豊富な知識と経験に基づき、当社経営に対して有益なご意見やご指摘をいただけることを期待して、新たに社外取締役候補者としております。 |                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                    |                |

- (注) 1. ※印は、新任の取締役候補者であります。
2. 取締役候補者金原利根里氏が董事長を務める麗港控股有限公司と当社との間には、商品仕入等の取引があります。
3. その他の各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
4. 当社は、後藤長八氏及び熊本倫章氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。両氏の選任が承認された場合、当社は引き続き両氏を独立役員とする予定であります。
5. 高舛啓次氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員の要件を満たしており、同氏の選任が承認された場合、当社は同氏を独立役員とする予定であります。
6. 後藤長八氏、熊本倫章氏及び高舛啓次氏は、社外取締役候補者であります。なお、当社は、後藤長八氏及び熊本倫章氏との間で、会社法第427条第1項に基づき善意でかつ重大な過失がない場合の損害賠償責任を法令が定める限度までとする旨の責任限定契約を締結しております。両氏の選任が承認された場合、当社は、両氏との間で当該責任限定契約を継続する予定であります。また、高舛啓次氏の選任が承認された場合につきましても、同旨の責任限定契約を締結する予定であります。

以上

# 株主総会会場ご案内図

会場 大阪市中央区東心齋橋1丁目5番5号  
株式会社ドウシシャ大阪本社ビル11階  
電話 (06)6121-5888 (代表)



## <交通手段>

- ◎地下鉄堺筋線・長堀鶴見緑地線「長堀橋駅」⑦番出口より南へ徒歩約5分
- ◎地下鉄堺筋線・千日前線、近鉄電車「日本橋駅」②番出口より北へ徒歩約10分
- ◎地下鉄御堂筋線・長堀鶴見緑地線「心齋橋駅」④-B番出口より南東へ徒歩約7分